

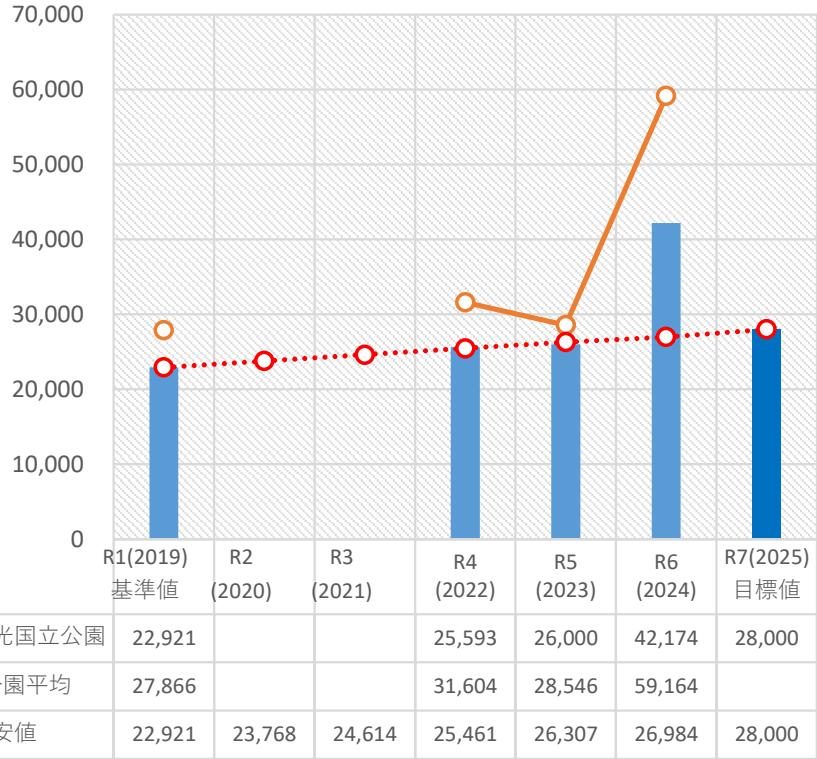
日光国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム2025令和7(2025)年度評価(案)について

数値目標の達成状況及び概要

資料1-2

1 国立公園での一人当たりの日本人観光消費額(単位:円)

出典: 令和6年度国立公園満喫プロジェクト推進業務報告書

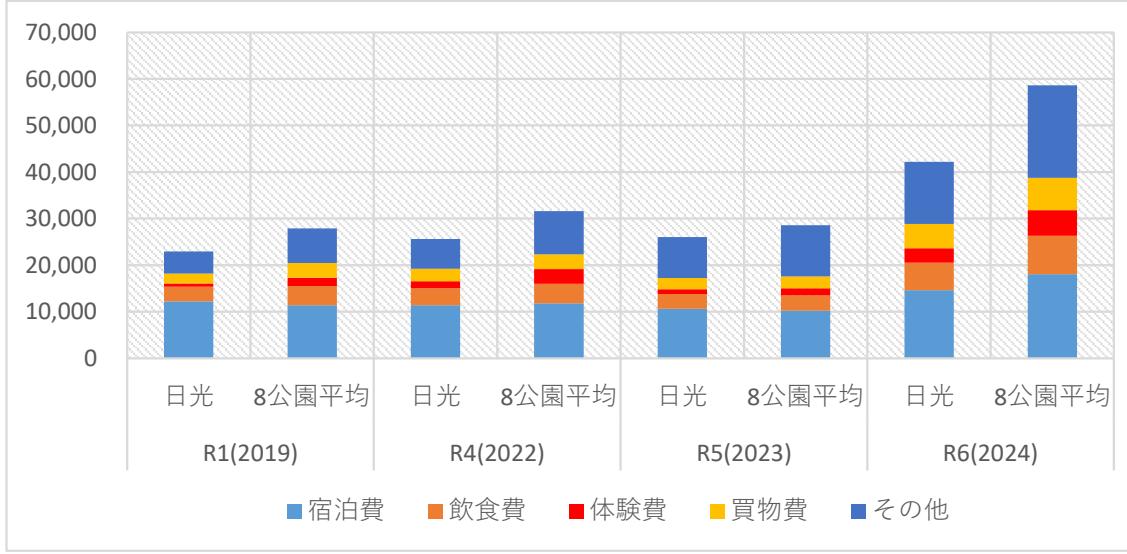


※R2(2020)、R3(2021)年については、新型コロナウイルス感染拡大のため、調査は行わなかった。

R6(2024)年の調査は、R5(2023)年までの調査とは設問内容・集計方法が異なる。

【参考】日本人観光消費額内訳の推移】

出典: 令和6年度国立公園満喫プロジェクト推進業務報告書



	R1(2019)		R4(2022)		R5(2023)		R6(2024)	
	日光	8公園平均	日光	8公園平均	日光	8公園平均	日光	8公園平均
宿泊費	12,188	11,411	11,403	11,818	10,616	10,234	14,625	18,131
飲食費	3,173	4,102	3,608	4,169	3,180	3,272	5,903	8,358
体験費	676	1,801	1,521	3,196	1,032	1,547	3,063	5,542
買物費	2,178	3,129	2,668	3,144	2,382	2,539	5,243	7,041
その他	4,706	7,423	6,393	9,277	8,790	10,954	13,340	20,092
全体消費額	22,921	27,866	25,593	31,604	26,000	28,546	42,174	59,164

【目標】

R1年の8公園平均と同等の水準

【達成状況】

- R6年の全体消費額は8公園平均を下回っている。
- R6年の全体消費額は8公園平均に対して71.0%となっており、R5年(91.1%) R4年(81.0%)やR1年(82.3%)と比較すると、8公園平均との差は拡大している。

※当初の目標値は達成

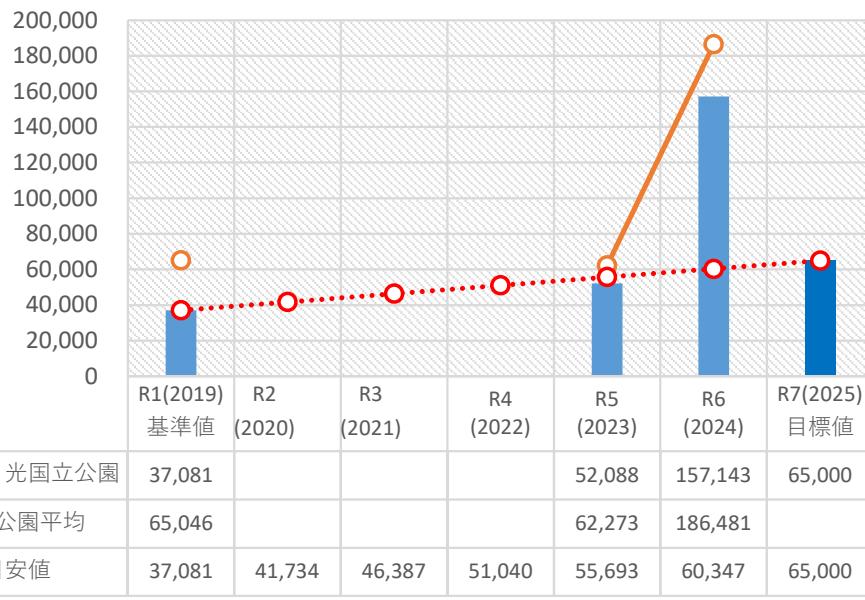
【概要】

- 日光国立公園の全体消費額は、どの年も8公園平均より少ない。
- R6年は8公園平均と比較して、全ての消費額が下回っており、特に体験費が大きく下回っている。
- 飲食費、体験費、買物費は、R1年から一貫して下回っている。

数値目標の達成状況及び概要

2 国立公園での一人当たりの訪日外国人観光消費額 (単位 : 円)

出典等 : 国立公園満喫プロジェクト推進業務報告書



※R2(2020)～R4(2022)年については、新型コロナウイルス感染拡大のため、調査は行わなかった。

R6(2024)年の調査は、R5(2023)年までの調査とは設問内容・集計方法が異なる。

【目標】

R1年の8公園平均と同等の水準

【達成状況】

- R6年の全体消費額は8公園平均を下回っている。
- R6年の全体消費額は8公園平均に対して84.3%となっており、R5年(83.6%)やR1年(57.0%)と比較すると、8公園平均との差は縮小している。

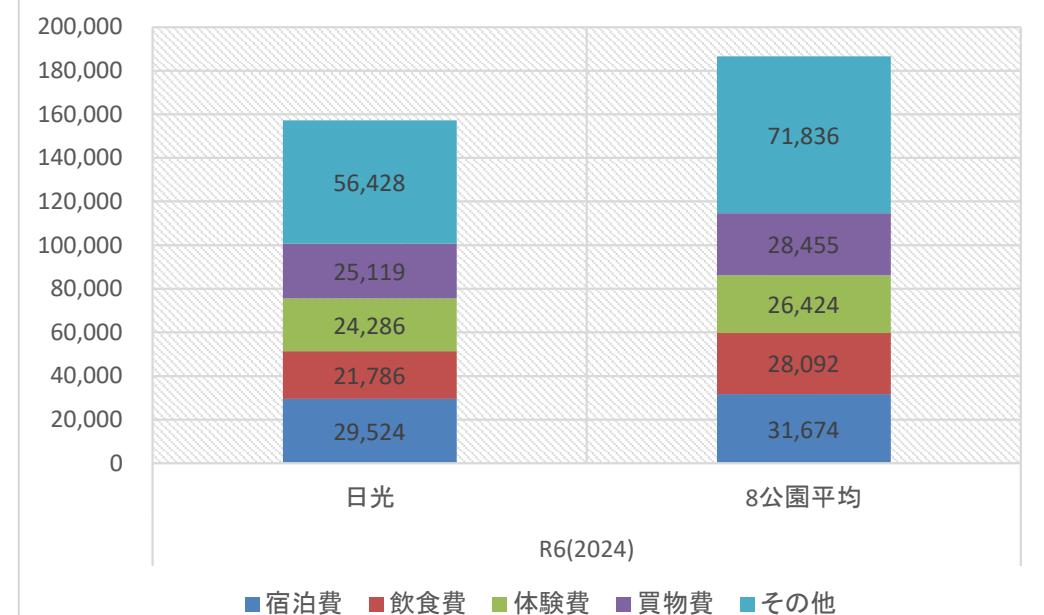
※当初の目標値は達成

【概要】

- 日光国立公園の全体消費額は、どの年も8公園平均より少ない。
- R6年は8公園平均と比較して、全ての消費額が下回っており、特に飲食費が大きく下回っている。

【参考 : R6年 訪日外国人観光消費額内訳】

出典等 : 国立公園満喫プロジェクト推進業務報告書



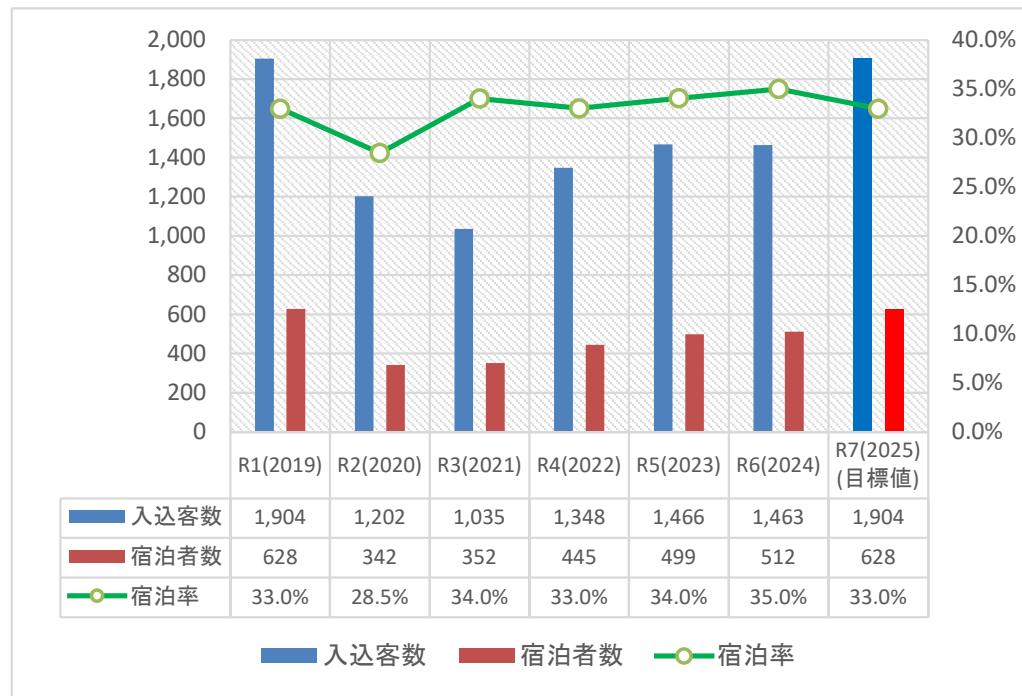
	R1 日光	R1 8公園平均	R6 日光	R6 8公園平均
全体消費額	37,081	65,046	157,143	186,481
宿泊費			29,524	31,674
飲食費			21,786	28,092
体験費			24,286	26,424
買物費			25,119	28,455
その他			56,428	71,836

※R1(2019)年の日光国立公園及び8公園平均の消費額の内訳は不明。

※一人当たりの訪日外国人消費額は、アンケート回答金額から平均額を算出したもの。

数値目標の達成状況及び概要

3 日光国立公園観光入込客数・宿泊数 (単位:万人) 出典:R6(2024)年栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果(国立公園外の地域を含む。)



【目標】

コロナ前の水準(R1)までの回復

【達成状況】

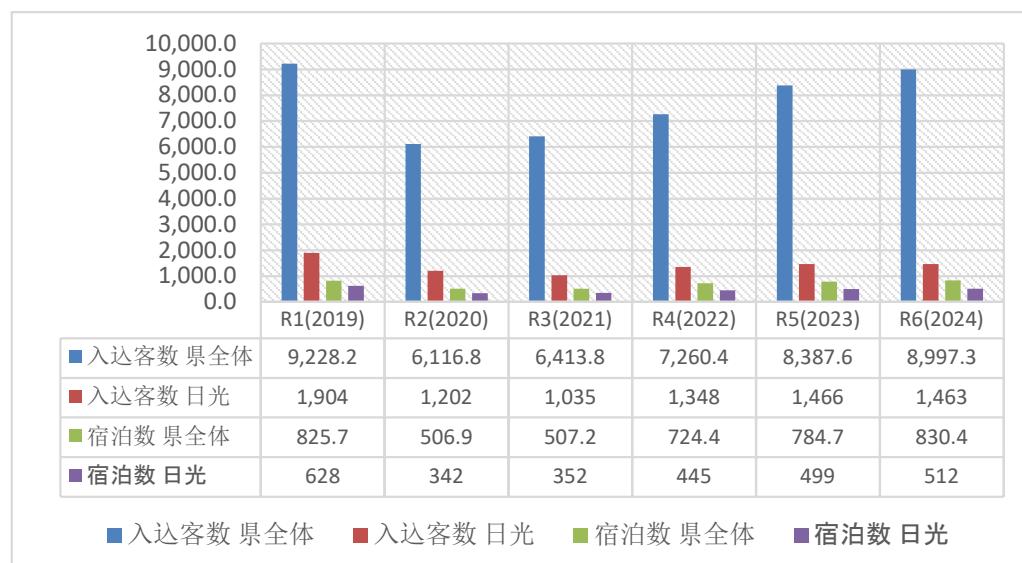
- 入込客数は、2025年目標に対し、76%に到達
- 宿泊者数は、2025年目標に対し、81%に到達

【概要】

- R6年の入込客数は、前年とほぼ同数(99.8%)となったが、R1年と比較すると441万人の減(76.8%)であった。
- 入込客数の市町別では、日光市の776.4万人が最も多く、次いで那須町の206.5万人、那須塩原市の206.2万人の順となった。
- R6年の宿泊数は、前年と比較して13万人の増(102.6%)となったが、R1年と比較すると116万人の減(81.5%)となった。
- 宿泊数の市町別では、日光市の284.7万人が最も多く、次いで那須町の153.9万人、那須塩原市66.8万人の順となった。

【参考: 栃木県全体観光入込客数・宿泊数】(単位:万人)

出典:R6(2024)年栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果(国立公園外の地域を含む。)

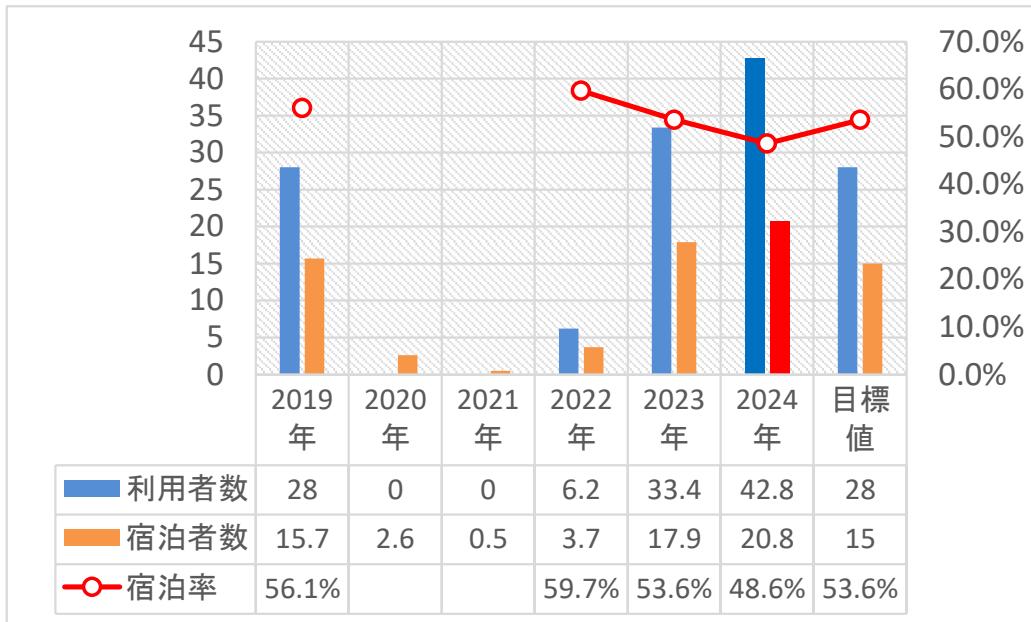


【概要】

- R6年の入込客数は、前年と比較して609.7万人の増(107.2%)となったが、R1年と比較すると230.9万人の減(97.5%)であった。
- 入込客数の市町別では、宇都宮市の1573.6万人(県全体に占める構成比17.5%)が最も多く、次いで日光市の1019.1万人(11.3%)、那須塩原市の771.2万人(8.6%)の順となった。
- R6年の宿泊数は、前年と比較して45.7万人の増(105.8%)となったが、R1年と比較すると4.7万人の増(100.5%)であった。
- 宿泊数の市町別では、日光市の294.0万人(県全体に占める構成比35.4%)が最も多く、次いで那須町の202.1万人(24.3%)、宇都宮市の189.1万人(22.8%)の順となった。

数値目標の達成状況及び概要

4 訪日外国人日光国立公園利用者数・宿泊者数（単位：万人）



出典等：令和6年度国立公園満喫プロジェクト推進業務報告書

【目標】

コロナ前の水準(R1)までの回復

【達成状況】

- 利用者数は、2025年目標28万人を超える42万人に到達
- 宿泊者数は、2025年目標15万人を超える20万人に到達

【概要】

- 2024年の利用者数は、前年と比較して9.4万人の増(128.1%)となり、2019年の28万人(目標値)から14.8万人の増(152.8%)となった。
- 2024年の宿泊数は、前年と比較して2.9万人の増(116.2%)となり、2019年の15万人(目標値)と比較すると5.8万人の増(138.6%)となった。

※2022年利用者数は下半期のみの集計。

2020年、2021年は外国人利用者数の調査を実施していない。

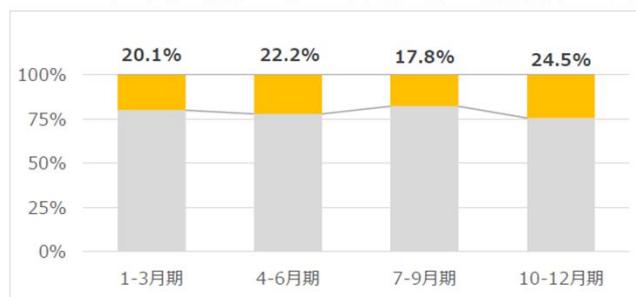
【参考】日本の自然に期待して来日した訪日外国人の割合(国立公園全体)(単位:人) 出典等：令和6年度国立公園満喫プロジェクト推進業務報告書

項目	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期
日本の自然に期待して来日し、実際に国立公園を訪問した数	1,677,184	1,975,991	1,543,190	2,379,234
訪日外国人数	8,354,418	8,889,414	8,655,602	9,713,933

【概要】

- 訪日外国人の約20%前後は、日本の自然や四季の体験・観光を期待して来日し、国立公園を訪れている。

日本の自然に期待して来日し、実際に国立公園を訪問した割合



ハード整備状況

(1) 外国人に対応した施設整備の進捗

● トイレ洋式化の状況

(単位:箇所)

		R6年度末 全体数	R6年度末までの 対応数	整備率
日光	国	6	6	94.1%
	県	12	12	
	市町村	16	14	
鬼怒川	国	0	0	77.8%
	県	0	0	
	市町村	36	28	
塩原	国	0	0	70.6%
	県	2	2	
	市町村	15	10	
那須	国	1	1	100.0%
	県	0	0	
	市町村	18	18	
合計		106	91	85.8%

※洋式トイレが1基以上ある、自然公園施設のトイレの数。

【整備の課題】

- ・崖地に立地している公衆トイレの工事費が高額となり予算の確保が難航している。
- ・温泉地におけるトイレ施設の維持管理費(硫化水素の影響による施設の劣化)

● 案内標識多言語化の状況

(単位:基)

		R6年度末 全体数	R6年度末までの 対応数	整備率
日光	国	30	30	83.3%
	県	65	50	
	市町村	1	0	
鬼怒川	国	0	0	70.6%
	県	3	1	
	市町村	14	11	
塩原	国	0	0	44.2%
	県	44	21	
	市町村	8	2	
那須	国	23	17	52.4%
	県	26	9	
	市町村	14	7	
合計		228	148	64.9%

(2) その他の主な施設整備の2024年の実績

日光	<ul style="list-style-type: none"> ・戦場ヶ原周回線歩道改修 ・湯滝園地（観瀑台）修繕
鬼怒川	<ul style="list-style-type: none"> ・各駅の案内板、列車内の案内板を令和6年度に多言語に変更 (新藤原、龍王峡、川治温泉、川治湯元、湯西川温泉、中三依温泉、上三依塩原温泉口、男鹿高原の各駅)
塩原	<ul style="list-style-type: none"> ・学校平遊歩道改修、おしらじの滝遊歩道改修 ・Wifi整備を那須塩原駅・塩原温泉・板室温泉に設置
那須	<ul style="list-style-type: none"> ・峰の茶屋登山口園地排水設備改修工事 ・観音沼森林公园にライブカメラ設置、映像配信(機器更新のためR7.5時点配信停止中)

(参考)一人当たり支出額とその他の要素の関係について(日本人)

右の資料から以下のことが読み取れる。

○一人当たり支出額の増加要因

- ・滞在宿泊日数の増加
- ・来訪目的が登山、ハイキング等のアクティビティ
- ・来訪目的が自然体験ガイドツアー

○合計滞在日数の増加要因

- ・来訪目的が自然体験ガイドツアー
- ・訪問回数の増加

○訪問回数の増加要因

- ・来訪目的が登山、ハイキング等のアクティビティ

まとめると、

①アクティビティの充実→訪問回数の増加

→滞在宿泊日数の増加→消費額増加

②自然体験ガイドツアーの充実→消費額増加

という関係になる。

したがって、一人当たりの支出額を増やすためには、

登山、ハイキング等のアクティビティと

自然体験ガイドツアーの充実

が必要と考えられる。

※回帰分析結果の見方

- ・回帰係数は、影響の度合いの強さを示している。
【例】滞在宿泊日数が1日増えると18,110円増える。
- ・t-値は、回帰係数を標準誤差で割ったもの。値が大きいほど統計的有意性あり。

「一人当たり支出額」に対する回帰分析結果

- ・旅行手配、来訪目的、滞在・宿泊日数を説明変数に採用すると、決定係数は0.513となりある程度の統計的有意性がある
- ・滞在・宿泊日数のt-値は35.90と説明変数の中で最も統計的に有意

重相関係数 : 0.514 自由度調整済決定係数 : 0.513

説明変数	回帰係数	標準誤差	t-値	P-値	下限 95%	上限 95%
Q4.旅行手配 : 4.旅行会社手配（テラーメイトの受注型企画旅行）	46,300	4,954	9.35	0.00	36,600	56,000
Q10.来訪目的 : 1.美しい自然の景観を楽しむため	-12,280	1,611	-7.62	0.00	-15,400	-9,118
Q10.来訪目的 : 2.登山、ハイキング、キャンプ、ダイビング、カヌー、サイクリング等を行うため	9,366	2,400	3.90	0.00	4,660	14,100
Q10.来訪目的 : 3.野生動植物を観察するため	21,990	3,350	6.57	0.00	15,400	28,600
Q10.来訪目的 : 4.自然体験ガイドツアーに参加するため	43,200	3,843	11.24	0.00	35,700	50,700
Q10.来訪目的 : 5.フォトショニクなまち並みや観光スポットを訪れるため	21,560	2,975	7.25	0.00	15,700	27,400
Q10.来訪目的 : 6.地域の生活・文化・歴史に触れるため	6,337	2,453	2.58	0.01	1,527	11,100
Q10.来訪目的 : 8.滞在したい宿泊施設があるため	17,110	2,651	6.45	0.00	11,900	22,300
Q10.来訪目的 : 9.地域ならではの食事を楽しむため	7,546	2,462	3.07	0.00	2,720	12,400
Q7.滞在宿泊日数	18,110	505	35.90	0.00	17,100	19,100

「合計滞在日数」に対する回帰分析結果

- ・情報源、旅行手配、来訪目的、訪問回数を説明変数に採用すると、決定係数は0.753となり統計的有意性がある
- ・“Q4.旅行手配 : 1.個人手配（宿などへの直接予約）”のt-値は34.66と最も統計的に有意

重相関係数 : 0.754 自由度調整済決定係数 : 0.753

説明変数	回帰係数	標準誤差	t-値	P-値	下限 95%	上限 95%
Q3.情報源 : 5.旅行雑誌・ガイドブック	0.27	0.05	5.71	0.00	0.18	0.36
Q3.情報源 : 6.旅行会社のパンフレット	0.19	0.07	2.67	0.01	0.05	0.33
Q4.旅行手配 : 1.個人手配（宿などへの直接予約）	1.50	0.04	34.66	0.00	1.42	1.59
Q4.旅行手配 : 2.個人手配（OTA（オンライン予約サイト）からの予約）	1.33	0.05	26.81	0.00	1.23	1.43
Q4.旅行手配 : 3.旅行会社手配（パッケージツアーやパック旅行）	1.51	0.06	23.71	0.00	1.39	1.64
Q4.旅行手配 : 4.旅行会社手配（テラーメイトの受注型企画旅行）	1.30	0.11	11.55	0.00	1.08	1.52
Q10.来訪目的 : 1.美しい自然の景観を楽しむため	0.59	0.04	14.39	0.00	0.51	0.67
Q10.来訪目的 : 3.野生動植物を観察するため	0.27	0.08	3.64	0.00	0.13	0.42
Q10.来訪目的 : 4.自然体験ガイドツアーに参加するため	0.30	0.09	3.47	0.00	0.13	0.47
Q10.来訪目的 : 6.地域の生活・文化・歴史に触れるため	0.20	0.06	3.58	0.00	0.09	0.31
Q10.来訪目的 : 10.リラックスしてゆっくり過ごすため	0.22	0.05	4.87	0.00	0.13	0.31
Q1.訪問回数	0.04	0.01	4.16	0.00	0.02	0.06

「訪問回数」に対する回帰分析結果

- ・交通手段、来訪目的を説明変数に採用すると、決定係数は0.654となりある程度の統計的有意性がある
- ・“Q6.交通手段 : 1.自家用車・レンタカー（マイカー規制による乗り換えなし）”t-値は34.53と説明変数の中で最も統計的に有意

重相関係数 : 0.655 自由度調整済決定係数 : 0.654

説明変数	回帰係数	標準誤差	t-値	P-値	下限 95%	上限 95%
Q6.交通手段 : 1.自家用車・レンタカー（マイカー規制による乗り換えなし）	1.95	0.06	34.53	0.00	1.84	2.06
Q10.来訪目的 : 1.美しい自然の景観を楽しむため	1.03	0.06	18.26	0.00	0.92	1.14
Q10.来訪目的 : 2.登山、ハイキング、キャンプ、ダイビング、カヌー、サイクリング等を行うため	0.99	0.08	12.06	0.00	0.83	1.15
Q10.来訪目的 : 3.野生動植物を観察するため	-0.28	0.11	-2.45	0.01	-0.50	-0.06
Q10.来訪目的 : 4.自然体験ガイドツアーに参加するため	-0.34	0.13	-2.61	0.01	-0.60	-0.09
Q10.来訪目的 : 6.地域の生活・文化・歴史に触れるため	0.21	0.08	2.49	0.01	0.04	0.37
Q10.来訪目的 : 7.温泉・サウナを楽しむため	0.63	0.07	9.14	0.00	0.50	0.77
Q10.来訪目的 : 8.滞在したい宿泊施設があるため	0.35	0.09	3.80	0.00	0.17	0.54
Q10.来訪目的 : 9.地域ならではの食事を楽しむため	0.30	0.09	3.55	0.00	0.14	0.47
Q10.来訪目的 : 10.リラックスしてゆっくり過ごすため	0.49	0.07	7.10	0.00	0.36	0.63
Q10.来訪目的 : 11.現地に在住又は滞在している友人や親族に会うため	0.63	0.16	3.94	0.00	0.32	0.94

(参考)一人当たり支出額とその他の要素の関係について(外国人)

右の資料から以下のことが読み取れる。

○一人当たり支出額の増加要因

- ・滞在宿泊日数の増加
- ・訪問回数の増加

○合計滞在日数の増加要因

- ・訪問回数の増加

○訪問回数の増加要因

- ・来訪目的が登山、ハイキング等のアクティビティ
- ・情報源が家族・友人等の紹介・推奨
- ・情報源が個人ブログ・SNS

まとめると、

- ①アクティビティの充実→訪問回数の増加
(→滞在宿泊日数の増加)→支出額増加
- ②他人への推奨意向(満足度)の向上
→情報源が家族友人等の紹介又は個人ブログ・SNS
→訪問回数の増加(→滞在宿泊日数の増加)→支出額増加

という関係になる。

したがって、一人当たりの支出額を増やすためには、

**登山、ハイキング等のアクティビティの充実と
他人への推奨意向(満足度)の向上**
が必要と考えられる。

※回帰分析結果の見方

- ・回帰係数は、影響の度合いの強さを示している。
【例】滞在宿泊日数が1日増えると18,750円増える。
- ・t-値は、回帰係数を標準誤差で割ったもの。値が大きいほど統計的有意性有り。

「一人当たり支出額」に対する回帰分析結果

- ・旅行手配、来訪目的、訪問回数、滞在・宿泊日数を説明変数に採用すると、決定係数は0.693となり統計的有意性がある
- ・滞在・宿泊日数のt-値は5.69と説明変数の中で最も統計的に有意

重相関係数 : 0.697 自由度調整済決定係数 : 0.693

説明変数	回帰係数	標準誤差	t-値	P-値	下限 95%	上限 95%
Q4.旅行手配：1.個人手配（宿などへの直接予約）	64,040	11,200	5.71	0.00	42,000	86,100
Q4.旅行手配：2.個人手配（OTA（オンライン予約サイト）からの予約）	46,890	11,200	4.20	0.00	24,900	68,800
Q4.旅行手配：3.旅行会社手配（パッケージツアーやパック旅行）	65,910	11,700	5.62	0.00	42,900	89,000
Q4.旅行手配：4.旅行会社手配（テラーメイトの受注型企画旅行）	39,580	18,800	2.10	0.04	2,631	76,500
Q10.来訪目的：1.美しい自然の景観を楽しむため	-39,410	10,400	-3.78	0.00	-59,900	-18,900
Q10.来訪目的：3.野生動植物を観察するため	26,510	12,100	2.20	0.03	2,795	50,200
Q1_訪問回数	22,240	5,398	4.12	0.00	11,600	32,800
Q7_滞在・宿泊日数	18,750	3,296	5.69	0.00	12,300	25,200

「合計滞在日数」に対する回帰分析結果

- ・情報源、旅行手配、来訪目的、訪問回数を説明変数に採用すると、決定係数は0.856となり統計的有意性がある
- ・“Q10.来訪目的：1.美しい自然の景観を楽しむ”的t-値は9.83と最も統計的に有意

重相関係数 : 0.859 自由度調整済決定係数 : 0.856

説明変数	回帰係数	標準誤差	t-値	P-値	下限 95%	上限 95%
Q3.情報源：7.TVメディアでの紹介	-0.40	0.17	-2.36	0.02	-0.73	-0.07
Q4.旅行手配：1.個人手配（宿などへの直接予約）	0.77	0.14	5.56	0.00	0.50	1.04
Q4.旅行手配：2.個人手配（OTA（オンライン予約サイト）からの予約）	0.99	0.14	7.31	0.00	0.73	1.26
Q4.旅行手配：3.旅行会社手配（パッケージツアーやパック旅行）	0.68	0.15	4.50	0.00	0.38	0.97
Q4.旅行手配：4.旅行会社手配（テラーメイトの受注型企画旅行）	0.54	0.24	2.26	0.02	0.07	1.01
Q10.来訪目的：1.美しい自然の景観を楽しむため	1.20	0.12	9.83	0.00	0.96	1.44
Q10.来訪目的：3.野生動植物を観察するため	0.73	0.15	4.89	0.00	0.44	1.02
Q10.来訪目的：4.自然体験ガイドツアーに参加するため	0.34	0.15	2.30	0.02	0.05	0.62
Q10.来訪目的：6.地域の生活・文化・歴史に触れるため	0.52	0.14	3.88	0.00	0.26	0.79
Q10.来訪目的：7.温泉・サウナを楽しむため	0.56	0.14	4.11	0.00	0.29	0.82
Q10.来訪目的：8.滞在したい宿泊施設があるため	0.39	0.17	2.32	0.02	0.06	0.73
Q1_訪問回数	0.49	0.07	7.53	0.00	0.36	0.61

「訪問回数」に対する回帰分析結果

- ・情報源、交通手段、来訪目的を説明変数に採用すると、決定係数は0.715となり統計的有意性がある
- ・“Q3.情報源：2.個人ブログ・SNS”的t-値は6.87と説明変数の中で最も統計的に有意

重相関係数 : 0.721 自由度調整済決定係数 : 0.715

説明変数	回帰係数	標準誤差	t-値	P-値	下限 95%	上限 95%
Q3.情報源：1.家族・友人等の紹介・推奨	0.51	0.09	5.67	0.00	0.33	0.68
Q3.情報源：2.個人ブログ・SNS	0.61	0.09	6.87	0.00	0.43	0.78
Q3.情報源：3.地域・施設の公式サイト	0.40	0.10	4.19	0.00	0.21	0.59
Q3.情報源：4.その他ウェブサイト	0.34	0.13	2.64	0.01	0.09	0.60
Q3.情報源：5.旅行雑誌・ガイドブック	0.44	0.09	4.85	0.00	0.26	0.62
Q3.情報源：6.旅行会社のパンフレット	0.46	0.12	4.00	0.00	0.24	0.69
Q3.情報源：8.旅行会社やコンシェルジュからの提案	0.38	0.16	2.41	0.02	0.07	0.68
Q6.交通手段：1.自家用車・レンタカー（マイカー規制による乗り換えなし）	0.34	0.10	3.32	0.00	0.14	0.55
Q6.交通手段：2.自家用車・レンタカー（マイカー規制による乗り換えあり）	0.44	0.12	3.79	0.00	0.21	0.66
Q10.来訪目的：2.登山・ハイキング・キャンプ・ダイビング・カヌー・サイクリング等を行うため	0.28	0.11	2.60	0.01	0.07	0.49
Q10.来訪目的：3.野生動植物を観察するため	0.22	0.11	2.10	0.04	0.01	0.43
Q10.来訪目的：10.リラックスしてゆっくりと過ごすため	0.21	0.09	2.23	0.03	0.03	0.40

出典:2021年以降の国立公園の利用動向について